

自昭和六年一月
至昭和六年十二月

道路の改良

第十三卷

道路の改良第十三卷總目錄

(自昭和六年十一月
至昭和六年十二月)

口 繪

竣工したる白川橋(滋賀縣)

竣工したる鶴見橋(岡山縣)

東京市萬年橋

大船片瀬間自動車道(鎌倉山切通)

竣工したる千石橋(奈良縣)

音無橋(東京府)

祝橋(山梨縣)

工事中の揖斐長良橋

大阪阿部野堺線道路開通式の自動車行進

竣工せる坂東大橋

第六回萬國道路會議會場

完成したる球磨川橋(熊本縣)

竣工せる白鬚橋(東京市)

ベロセメント見學(道路鋪裝講習會)

竣工せる鎌倉三崎線(神奈川縣逗子葉山間)

竣工せる秩父橋(埼玉縣)

新裝なれる神明國道(舞子公園附近)

薨去せる顧問濱澤子爵

卷頭言

弔詞

主張

府縣道の改良を策せよ

論說

迎年の辭

道路改良の必要

本邦驛制確立に至る迄の二三の考察

水野 鍊太郎
野村 兼太郎
長谷川 久一

一 一 一
一 一 一
一 一 一

號數

一九八七六四三二一 二二二〇九

頁數

一 三
九

道路上に關する費用の負擔に就て

道路公債發行の急務

道路の進歩に就て

受益者負擔金に關する法規整備の要

外國觀光客の誘致策に就て

陸上交通機關の改良及建設政策の一大變換を望む

道路政策の確立を望む

道路會議復活の要求

交通機關の整備刷新のため

自動車運輸の勃興と小運送問題

道路と自動車税

國立公園と道路

失業救濟道路改良工事に就て

自動車交通事業法と道路の改善

外客誘致事業と道路

道路と文化

都市計畫事業と起債

堀切善次郎

中川正左一

藤原俊雄

田中廣太郎

橋本圭三郎

近新三郎

瀧本誠一

大口喜六

田川大吉郎

中野金次郎

藤原俊雄

田村剛三

川西實

増井幸雄

新井爾郎

野村兼太郎

田中廣太郎

二二

二六

二九

三六

四六

五〇

三

二

三

一〇

三

二

七

三

三

一〇

三

道路受益者負擔に就て

國防と交通

東京市街路の誇り

道路交通の改良に就て

交通道德の涵養と交通風俗の匡勵

交通經濟と道路の改良

時論

電氣事業法の改正に就て

自動車交通事業法案を評し其の一部の修正を望む

失業救濟國道工事の執行を誤る勿れ

道路祭に就て

道路祭に方つて故堀田貢氏を懷ふ

關門國道改良論

電柱及電線の移轉に就て

ガソリン稅の創設

橋本圭三郎 九三

沖藤崎敏雄 一〇五

道原俊雄 一一一

長谷川久一 一二二

中野金次郎 二二三

櫛谷久一 二二二

橋本圭三郎 二二二

島政僧 二二一

近路新僧 二二一

小路三僧 二二一

路政僧 二二一

丹波好僧 二二一

田中僧 二二一

武井浪人 二二一

丹波好僧 二二一

武井群嗣 二二一

丹波好僧 二二一

丹波好僧 二二一

談叢

道路所感

日本に於ける道路の建設

道路費に政府の負擔を増加したい

支那の道路改良と中華全國道路建設協會

十一

交通混雑防止の根本方策

私設公道論

北海道の道路と開拓使

道路本位か救濟本位か

道路に關する費用の負擔に就て

古代交通陸線の研究の必要

道路費負擔論に就て

助郷村の話

一	宮	房	治	郎	六一	デイ・エイチ・ブレーキ
田	川	大	吉	郎	九九	
水	野	鍊	太	郎	八一	
飯	沼	一	省			
和	井					
岡	崎	早	太	郎	七六	
長	谷	群	篤	憲	六九	
岡	崎	早	太	郎	一〇六	五七
武	井	群	嗣	憲	二二一八八	九九
和	田	篤	憲		二五六七八	八一
田	井	篤	憲			四一
和	田	篤	憲			
篤	憲					
憲						
四	四	四	二	一	五三二一	一

「鋪装」の意味に就て

自動車交通事業法に就て

雲助と道中女

宿場役人に就て

都市交通問題

路面維持費の財源に對する提案

公用用自動車の使命と性質より觀たる道路改良維持修繕並警察

伊太利に於ける自動車道路の概況

完成した道路の利用狀況を見て道路改良の急を痛感す

技
術

混凝土の寒中施工

下路構橋に對する一考案

瀝青乳劑雜觀

鋪裝の荷重に就て

六

四二

江守保平江口己年

四一〇

和田篤憲和田篤憲

四三

江守保平江口己年

四一

和田篤憲和田篤憲

二二九八

平山泰治平山泰治

二二一〇

菅健次郎菅健次郎

二三四

池本泰兒池本泰兒

二三一

武井群嗣武井群嗣

二三七

濱田泰治濱田泰治

二二六九

三木榮三三木榮三

一九八

宮本武之輔宮本武之輔

一一五

田中豐三田中豐三

一二九

田元三田元三

一三五

山田榮三山田榮三

一六五

東京市の砂利需給に就て

構造物の實驗解法

簡易鋪装の流行と歩車道の區分

道路工事に伴ふ路下埋設物の整理

復興街路警見

道路鋪装の新傾向

鋼橋の發達

ポルトランド・セメントの規格並試験に就ての考察

軟弱なる基礎地盤

路床の性状と鋪装

簡易鋪装試験道路

タル鋪装に關して

車輪より来る挫壓力に就て

鋪装混泥土用骨材の配合に就て

安倍 邦衛

青木 楠男

近藤 謙三郎

宮内 義則

中島 時雄

岩澤 忠恭

青木 楠男

三井 口真造

三木 榮三郎

三木 榮三郎

三井 守保

三木 榮三郎

一八三

一九四

一九五

二〇一

二〇二

二〇五

二三一

二三二

二六三

二六七

二五二

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

七

セメントの化學的抵抗性に就て

衛生上より視たる土地の區劃整理

地方道の鋪装幅員に就て

歲次己亥三月寄

金匱要略

最近道路工學の趨勢に就て

輓
近
の
橋
梁

諸床土壤の物理的試験上其の分類方法

旁置角七又添二等角共二十九

海外道路時事

物部博士の航空港の語に就て

藤	物	今	高	三	藤	大	山	今	西
芳	部	川	川	浦	井	野	田	川	川
生	長	豐	田	真			田	豐	榮
	穗	二	七	透	博	元	二	郎	三
		郎	昭	郎					

八四 七九〇八九七九九五七〇四 九〇 一二九 三八 五四八
七九四五四八八〇四六二三 六五 六二八 七八二 六七五四五
一一一 一二五七六

河童から土龍へ

土木主任官會議を覗いて

英國の誇り

幸橋物語

五十九回帝國議會を覗いて

ロンドン物語

内務省土木局長の交迭

道路に關することを

地方廳を訪れて

地方廳訪問記を讀むで

見たまゝ思ひ付いたまゝ

九	佐	溢	一	初	田	翠	綠	一	二	五
				藤	井	真	透	四	八	三
	江	記		本	波	老	人	四	八	七
				泰	真	透	者	五	九	二
	生	武	者	兒	人	透	者	六	一〇	五
	一	〇	一〇九八七	二	〇	七	六	六	一一	一
	一	二	一	一	二	九一九	八	一	八	一
	二	一	一	二	二	九三八六五	六	〇	六	〇

紹介

- ガソリン課税の理論と實際
獨逸幹線道路改良工事示方書に就て
セメントマカダム鋪装
北伊豆の震害と道路に就て
吾妻橋改築工事概要
英國に於ける試驗鋪裝
波蘭に於ける道路財團
ソヴィエット聯邦に於ける路政
大阪府放射道路の完成と自動車交通に及ぼす劃期的效果
瀝青乳剤「エムラス」の創造
經濟的で效果のあつた道路橋
東京市郊外道路の改良概況
大阪府の道路交通調査
大阪府自動車道路網改良計畫の確立
簡単なる積雪防止

藤芳義男	二一〇八
吉岡計之助	三三八四
有元守保	三三八八
江田平	三三九三
藤井元岩	三四六二
瀧田鶴透	四五一〇九
K藤元	五六一二
一瀧田	五六一〇九
中江	五六一〇九
藤K一瀧田	五六一〇九
記者	五六一〇九
藤K一瀧田中江	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者者	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者者好	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者者好武	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者者好武智	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者者好武智浪	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者者好武智浪義	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者者好武智浪義澤	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者者好武智浪義澤金	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者者好武智浪義澤金三	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者者好武智浪義澤金三郎	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者者好武智浪義澤金三郎野	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者者好武智浪義澤金三郎野丹	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者者好武智浪義澤金三郎野丹波	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者者好武智浪義澤金三郎野丹波國	五六一〇九
藤K一瀧田中江記者者好武智浪義澤金三郎野丹波國上	五六一〇九

滿洲地方に於ける土木事業と都市計畫施設

道路警戒標と道路方向標

道路工事執行標準示方書

感想

東京市路面鋪裝普及の概況

視察

南洋地方の交通事業に就て

史料

名縣令と島根の道路

東海道行脚

通信

歐米所々
道路會議だより

三浦磐雄 二九七

大阪府土木部道路課 二一九

徳永泰人譯 一二四

近新三郎 五九八

内田嘉吉 五一九

中好僧六七五

路政 七八五

田中好僧六七五

藤井良亮 一〇九

來島良亮 一〇九

眞透 一〇九

二二四 二一五
二一三 二一五
二一三 二一五
二一三 二一五

英國に旅して
柏林を訪ねて
歐洲を巡歴して
ロンドンを訪ぶて
琉球紀行

地方通信

雜報

藤 藤 藤 藤 藤
井 井 井 井 井
貴 真 真 真 真
地 透 透 透 透
邦 透 透 透 透
生 二 二 二 二

一一〇八七六五四三二一
六六四六三一三四二六六
七六三九五九三〇五〇五

- ◎失業救濟道路工事の確定
◎揖斐長良二大川架橋起工式◎東京の地下鐵工事

- ◎土木主任官招待宴

- ◎牧理事監修「高等土木工學」の進展◎道路研究會の近況

◎内務省土木出張所長會議開催

四一六一

◎第一回全國都市問題會議に於ける諸問題◎宮城縣下阿武隈川架橋起工式◎幹事會開催

一四二

◎理事會開催

一四二

◎大阪阿部野堺線道路工事竣工式

一三四

◎米國の道路と自動車問題並映畫會の開催◎幹事會◎理事會◎新舊常務理事送迎理事會

◎道路祭の舉行

一四一

◎都市交通機關統制運動◎本會評議員會及第十二回會員總會開會

◎本會の開催する二大會

一八一

◎藤井眞透氏歸朝さる◎東京地下鐵の難設計

一七七

◎道路鋪裝講習會記要

一九一

◎ソヴィエット聯邦の道路問題

一五四

◎上海で路市展覽會開催 ◎「高等土木工學」の進展 ◎九州沖繩八縣土木課長會議 ◎福岡に於て開催したる道路學術講演會

幹事會及理事會

法
令

◎國道改良工事實施設計調製に關する件通牒

四一四七

◎失業救濟の目的を以て施行する國道改良工事に關する件 ◎失業救濟の目的を以て施行せらるゝ國道改良工事に關する件 ◎失業救濟の目的を以て施行する國道改良工事の地方分擔金に關する件 ◎失業救濟の目的を以て施行する府縣道改良工事に關する件 ◎失業救濟の目的を以て施行する府縣道改良工事に關する件

◎失業救濟の目的を以て施行する國道改良工事の地方分擔金に關する件

五一四一

◎府縣道路線名及終點名の變更の要を生ぜし場合内務大臣の認可を要すべきや

八一七五

◎期間經過後不用道路敷地(府縣道)が町村道の道路區域内に在る場合の引渡しに關する件 ◎同上八ヶ

月の期間内に道路占用の出願ありたる場合許可差支なきや ◎道路法第十一條第七號乃至第九號に依

り認定する府縣道の路線名の定め方に關する件

◎軌道工事にして附帶工事完成せざる以前に於て運輸開始の認可を與ふるも支障なきや 一〇 一五二

◎廢道敷の交付を受けたる公共團體は期間満了前拂下處分をなすことを得るや◎未成年者は事由の如何に係らず工事請負人たるの資格なきや

◎舊線道路の供用廢止と新線道路の供用開始は同時になすべきものなりや 一一 一七一

◎勅令第四七四號第二條の適用範圍◎道路工事執行令第十九條を説明ありたし◎通常の風雨降雪は天災地變として取扱はざるも差支なきや◎官有財產としての廢道敷の還付に關する件

◎軌道運輸開始に關する件

一一 一七三

特許

アスカル



簡易舗装

日本アスカル工業合資會社

東京市赤坂區青山北町四ノ一〇三

電話青山(63)4973・8148番

工 場

川崎市南河原六一二番地

出張所

名古屋・京都・神戸・京城

近刊

道路講演集

全冊貳金

右は第五回道路職員講習會に於ける左記諸氏講述の筆記の擔當各講師に校補を煩はし今回前記印刷實費を以て頒布することゝせり。

目次

挨拶

國產品の使用に就て

土木行政

水野鍊太郎
橋本圭三郎
三邊長治
清水良策

都市計畫

兒玉九一
藤岡長敏
藤井真透

道路整理

道路材料

隧道工事

星野茂樹
青木楠男

帝都復興事業に就て

道路構造

菊地明

鐵筋混擬土
道路鋪裝に就て

永田年
岩澤忠恭

道路に對する所感
地震及耐震摘要

中川吉造
物部長穂

アメリカの道路に就て

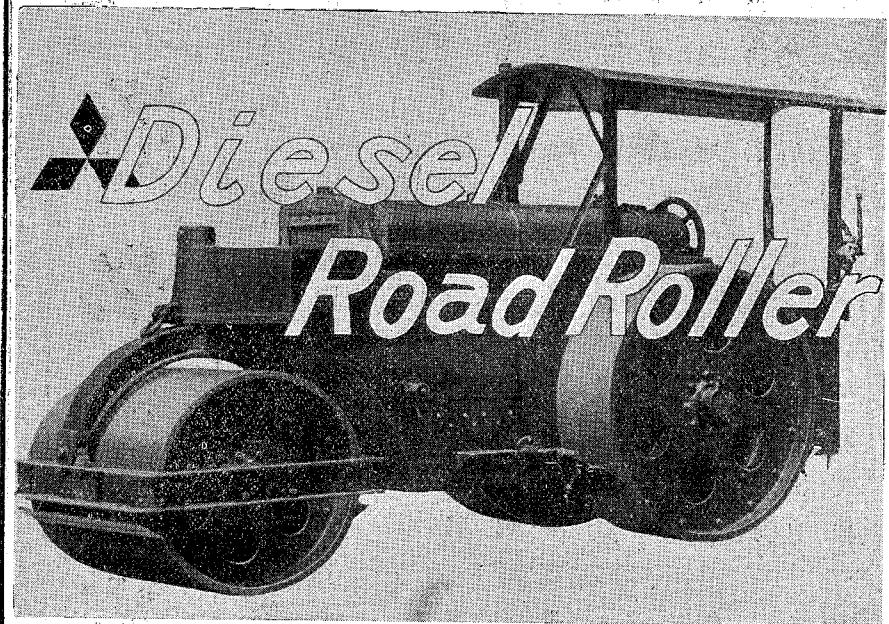
田邊良忠
藤田周造

歐米の道路

牧野雅樂之丞
中川幸太郎

道 路 改 良 會

純國產の精華



内務省東京土木出張所御註文十噸半マカダム型
三十五馬力ディーゼルロードローラー

大正五年以來既に十萬馬力に垂らんとするディーゼルエン
ヂンと、大正十一年以來百數十臺のロードローラーとを製
作せる経験を有する弊所が其優秀なる設計と工作との技術
の粹を凝らして最もよく我國に適する様に製造した本機は
純國產の最高級ディーゼルローラーと云ふ事が出来る多數
のストックあり續々御注文を乞ふ。

(型錄は御一報次第拜呈す)

製作者 三菱神戸造船所
一手販賣店

三菱商事株式會社機械部
東京・丸ノ内

大阪府泉北郡小栗街道鋪裝實況



生乳木鈴

特許國產用校面床道

易廉美適
簡低優快
工用裁感
施費體觸

日本アスファルト乳剤株式會社

營業所

東京市麪町區丸ノ内海上ビル七階

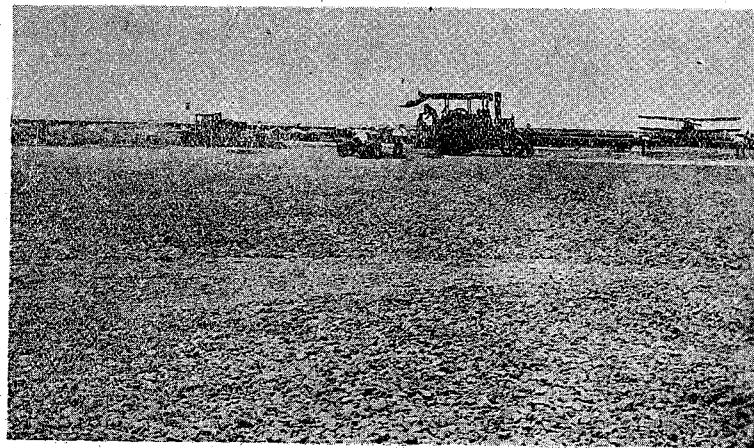
電話九ノ内四六三一〇

工場

神奈川縣大船在小坂村

電話録倉七三六番

昭和第一四號ノ一一九ノ二
昭和六年十一月二十五日許可



横須賀海軍航空隊飛行場行場マユビチマルス工裝實況

ビチュマルス鋪装航空場の完成

豫て弊社にて施工中の横須賀海軍航空隊飛行場の一帯四萬三千有余平米は七十日を要し爰に完成いたしました

ビチュマルス鋪装の航空場は飛行機の滑走度を増大すると同時に塵埃を防ぐ等理想的なものとして多大の稱讃を頂いて居ります

一般道路に於てもビチュマルス鋪装は維持費の低廉、埃のない高級道路として御採用の程を御奨めいたします



日本ビチュマルス株式會社

本社 東京市丸ノ内二丁目八番地
工場 横濱市中區天神橋
電話 丸ノ内(23)一六七四番
出張所 大阪市西區土佐堀通一ノ一大同ビル
電話 土佐堀四三四三・三一八